

2020年7月NHK九州沖縄地方放送番組審議会

7月のNHK九州沖縄地方放送番組審議会は、16日（木）、NHK福岡拠点放送局（ウェブ開催）において、10人の委員が出席して開かれた。

議事はまず、事前に視聴した、実感ドドド！「起業家が語る どうすればいい！？九州沖縄の経済」を含め、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、8月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	富田 めぐみ	（琉球芸能大使館代表）
副委員長	田川 大介	（株式会社 西日本新聞社 編集局総務）
委員	秋本 順子	（金属造形作家）
	乾 眞寛	（福岡大学 スポーツ科学部 教授）
	大鋸 あゆり	（伊万里ケーブルテレビジョン株式会社 取締役放送部長）
	楠田 喜隆	（株式会社 雲仙きのこ本舗 常務取締役）
	籠田 淳子	（有限会社 ゼムケンサービス 代表取締役）
	関西 剛康	（南九州大学 環境園芸学部 教授）
	西野 友季子	（株式会社ニュー西野ビル 代表取締役）
	古荘 貴敏	（株式会社 古荘本店 代表取締役社長）

（主な発言）

<実感ドドド！「起業家が語る どうすればいい！？九州沖縄の経済」

（総合 7月3日（金）放送）について>

- 新型コロナウイルスの感染拡大にもかかわらず、出演した3人の起業家が終始明るく前向きな姿勢で、多くの事業家が勇気づけられたのではないかと感じた。番組を通して2つのメッセージを受け取った。1つは、やはり九州はアジアに近く、1,300万人の人々が一体感を持ちながら暮らしており、九州としての強みを再確認できた。もう1つは、経済というものは、そもそも経世済民に由来するなど、お金を稼ぐという以前に、まず社会のために役に立つことが本来の目的であるということに改めて気づかされた。気になった点は、地方創生の意識が高まり、20代の地方への転職希望者の割合が増えているということだったが、ほかの世代についても知りたかった。また、テレワークについての議論があったが、実際テレワーク可能な求人はどうのどのような業界や職種なのか、9万4,000人と紹介された九州における女性の潜在就労者

の何割程度の受け皿をテレワークによって作ることができるのかをより深く知りた
いと思った。全体を通してすばらしい番組だった。

- 「どうすればいい！？九州沖縄の経済」という命題を掲げながら、結局何を言いた
いのか、最後まで分からなかった。県境を越えるとか、九州は一つといったスローガ
ンや、生き方、幸せという抽象的で表層的なワードが繰り返されており、メッセージ
が何なのかかが伝わってこなかった。家畜への口蹄疫感染からの再起や、廃校や
古民家を生かした地域の取り組みなど、興味深い話題があったが、的がしぼれてい
ないと感じた。3人の起業家がそれぞれの分野の専門のことや言いたいことを述べ
て、そのまま終わってしまったという印象がある。冒頭で「徹底討論する」という発
言があったが、この内容では徹底討論とは言い難いのではないかと。安易に用いるべ
きではないと思う。新型コロナウイルスの感染拡大で深刻な危機に直面している人
が、これからどうしていけばいいのだろうかと思いながらこの番組を見たときに、
もの足りなく感じたのではないだろうか。

(NHK側)

例えば破産した人、倒産した人、家族を亡くした人などが、明
日に向かって生きていくためにはどうすればいいのかというよう
な質問を加えてもよかったかもしれないと感じた。番組としては
未来志向というコンセプトで制作したが、視聴者が持つであろう
疑問を先回りして答えるような質問を用意していてもよかったの
かもしれない。指摘いただいた点は今後の参考にしたい。

- 新型コロナウイルス感染拡大下における番組だと、感染防止対策や医療的な話も
多い中で、九州で活躍している起業家が前向きな意見を次々に言っており、勇気を
もらった。新型コロナウイルスの感染拡大でたくさん出てきたマイナス面を踏まえ
ながらも、後ろ向きではなく、現状をどのように打破していくかということをして
おり、視聴者のやる気が出る番組だと感じた。地方創生を真剣に考えていかなけ
ればいけない時代に来たということを、実績を伴う起業家が話しており非常に説得
力があつた。人選もよかったと思う。
- 3人の起業家は明るく爽やかで、印象がとてもよかった。番組の構成も、九州沖縄
の強みと弱さという切り口で、短い時間で分かりやすい作り方になっていると思っ
た。全般的にはよかったが、すばらしい起業家を紹介する番組かのような印象もあ
り、番組からのメッセージが何なのか伝わってこなかった。九州は一つという大
きなテーマを発信していたが、一方では、車で移動するときにナンバープレート

気にするなど、新型コロナウイルスの感染者数が再び増加してきているという事態にも直面している。九州は一つということ、どのような方法で具体的に進められるのか、番組で取り上げられていた大きな規模の事例だけではなく、小さなステップをつないでいくことも大切だと感じた。起業家の人選も似た人たちを集めた印象があるが、九州を一つにしていくにはさまざまな人の意見が重要で、今後に向けてNHKのファシリテーターとしての役割にも期待したい。

- 3人の起業家の話は興味深く、番組を通して初めて知ることもあり、とてもいい事業をされている人の話を聞いてよかった。ただ、今回の新型コロナウイルスの感染拡大で、この起業家の人たちにどのような影響や苦労があったのかという説明が足りなかったように感じた。今回はスタジオでのトークセッションのような形だったので、新型コロナウイルスの話題というよりも、経営や経済の考え方についての話で、高齢者や主婦、学生などの視聴者層には伝わりにくいと感じた。番組は温かい雰囲気でも終了したが、最後は司会者の魚住優アナウンサーに、新型コロナウイルスの感染拡大でどうしていったらいいのかという重要な結論をまとめてから番組を締め上げてほしかった。気になった点は、番組内でノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌスさんの「後戻りしてはいけない、さらに、そのために九州は重要な役割を果たせる」というメッセージが紹介されていたが、番組側からどのような質問を投げかけたのだろうか。

(NHK側)

ユヌスさんには、そもそも九州には土台としてソーシャルビジネスの研究機関があり、ソーシャルビジネスに携わっている人が多いことを質問の前提として「九州の人々がソーシャルビジネスや、社会的な意義を果たせるビジネスでどのように世界を変えることができるのか、またそのような可能性があるのだろうか」という質問をした。

- 出演した起業家のようにポジティブシンキングな人にとっては、非常に希望が持てる前向きな番組だったと思う。一方で、多くの人たちは、現状を憂う心情に支配されている。そのような中で、この番組を見ると、「そんなのんきな話ではないだろう」となり、番組への反応は二分されるところがあるのではないかと思った。九州沖縄の経済の話であったが、視野がアジアまで大きく広がったことや、新型コロナウイルスの感染拡大下において、より注目が集まる女性の雇用問題やテレワークなど、いろいろなことを考えるきっかけになった。九州の中でどのように人材が還流し、活躍する場を作るのか考えさせられた。多くの新しいビジネスに挑戦しているとい

う起業家の先見性に触れて、前向きな気持ちにはなったものの着地点が見えなかったという不安さが残り、どのように現実の九州に当てはめていくのかという部分が少し見えづらかった。

- 徹底討論という言葉には、違和感があった。先の見えない新型コロナウイルスの感染拡大の中で、この危機を乗り切るためにどうすればいいのかというような問題提起をすと思って見ていたので、番組を見終わったあと、現実は甘くないという印象を持った。起業家3人について、これまでの活躍の様子を紹介していたが、ほかの番組などでもその活躍ぶりを認識していたこともあり、今さらという感じもあった。九州は一つという理想も、非常に難しい現実があるのではないかと思う。彼らなりにいまをどう乗り切っているのかということにとっても興味があったが、スタジオでの楽しいな会話は徹底討論とはほど遠く、直面している現実についてもっと具体的に討論してほしかった。
- さまざまなヒントがあり、勇気づけられた番組だった。異なる分野の起業家の経験や視点からの意見がテンポよく、短い中で分かりやすく伝えられていた。もっと詳しく聞きたいと感じる部分もあったが、起業家の方が体験しているからこそ共感できて、参考になることばも多く刺激になった。九州は一つという新しい可能性が生まれてくると、自分の中で再確認することもできた。気になった点は、最初のテーマが九州の強みと課題、というのが少し強引な印象がした。討論も具体的により深く、どのようにすればいいのかという部分に重点を置いてほしかった。しかし、この厳しい状況だからこそ、さまざまな可能性があるということ知り、前向きな気持ちになれた。考えるきっかけになる番組だった。
- 番組全体のリズムはとてもよかった。3人の起業家の発言をしっかりと聞かせる場面と、時折挿入される映像のバランスもちょうどよかったと思う。ただし番組後半で3人が直接やり取りをしていくようになり、やっと議論が始まったという感じだったので、その議論を深めていくところをもう少し聞きたかった。3人の起業家は、社会課題の解決、女性の再就職支援、飲食と分野は違うが、それぞれの分野でよりよい社会にしよう、より魅力ある九州にしていこうというポジティブなメッセージが發せられていたので、非常によいキャスティングだったと思う。ただ、番組の結びでは、魚住アナウンサーのまとめのコメントが必要だったのではないかと思った。もう少し深掘りが必要だと感じたが、視聴者自身がこの番組を見て、さまざまなことを考えるきっかけになる番組だった。25分という短い時間でリズムよく見られた番組だった。

- “ウィズコロナ”の時代を生き抜くためのヒントを徹底的に語り合うということだったが、徹底的に語り合えていたかという点に疑問を感じた。少し世間話のような、特に前半はいろいろなところで聞く話で、新しい発見がなかった。番組の締めくくりに当たり障りのないまとめ方だと感じた。視聴者は、限られた時間で番組を見ている。その番組を見る価値というのは、番組で得た知識を生かすことができたり、癒やしを感じたり、感銘を受けたり、新たな発見をしたりすることだと思う。今回の番組について言えば、すでに視聴者も実感として気づいており、議論も始め、行動も始めているものだと思う。それよりも、事業を持続させるためには何が必要なのかなど、一歩先の視点が欲しかった。また気になったのは、出演者の紹介が少し足りないのではないかという点で、事業で上がった利益を、さらにあらたな社会貢献事業に投資していることを補足したほうがよかったと思った。番組全体として、軽くて内容が薄かった。今後は、経済をどのようにしていくか具体的な取り組みが分かるような、発信力のある番組を期待したい。

(NHK側)

限られた時間の中で番組を見ている視聴者にとって、その番組を見る価値をどう考えるのかという話は、心にととても深く響いた。今後も頂いた意見を参考に、地域の力になり、あるいはヒントになるような情報を積極的に伝えていきたい。

(NHK側)

番組として何が言いたかったのか、具体性に乏しかったという指摘については、「実感ドドド！」の3つ目のド、「どうすればいいの」という疑問に十分に答えられていないということなので、この点はしっかりと今後に生かしていきたい。貴重な時間を使って番組を見ていただく以上、見てよかった、何か一つでも学んだものがあつたなど、満足感を得られるものを1本でも多く作っていきたい。

<放送番組一般について>

- 6月19日(金)の実感ドドド!×四国らしんばん 「“豪雨”×“新型コロナ”から命を守る」を見た。九州沖縄と四国の番組が連携しており素晴らしいと思った。平成29年の九州北部豪雨の被災地域の深刻さや、防災意識の向上、これから起こるであろう台風や豪雨の前にしっかりと対策を取ることの重要性を理解できた。各自

治体の作成しているハザードマップは、大きい河川については整備されているが、小さい河川については着手できておらず、ハザードマップを作っていない自治体もあると聞き驚いた。その上で、各家庭でマイタイムラインや心のスイッチの準備が必要であるということを知った。まさに一人一人の命を守る行動が、皆さんの命を守ることに繋がると思った。各地での豪雨の際は、ニュースや番組内でも避難の呼びかけや注意喚起をしているが、今後も、スマートフォンやラジオなどと幅広く連動して、さらなる呼びかけをしてもらいたいと思った。

- 6月23日(火)のニュース「令和2年沖縄全戦没者追悼式」を見た。今年は、新型コロナウイルスの影響で縮小した形の式典だった。全国に発信できたことはよかったと思うが、参列者が少ない会場の映像は、新型コロナウイルスの大変さは伝わるものの、本来の平和のメッセージは伝わりにくかったように感じた。映す対象が限られており、何か工夫が必要だったのではないかと考えた。沖縄県の玉城デニー知事の平和宣言や、高校生の「平和の詩」朗読の際に、会場では手話通訳者がいたが、画面には映っておらず残念だった。知事の平和宣言の一部が、今年は英語と沖縄の言葉でも話していたが、例えば、字幕を入れるのは難しいのだろうかと思った。8月には、広島や長崎の原爆の日、そして終戦記念日を迎えるが、今年はいずれの式典も形を変えた開催となると思うので、少しでも視聴者に問いかける映像の工夫を期待したい。
- 7月4日(土)のNHKスペシャル タモリ×山中伸弥「“人体VSウイルス” 驚異の免疫ネットワーク」を見た。新型コロナウイルスの特徴や、ウイルスが入ってきたときの人体の中で免疫機能がどのように機能し、ウイルスと闘っているのかということが、明確に分かった。番組では俳優の石原さとみさんやラグビー日本代表の福岡堅樹選手がゲストとして出演しており、この人選が非常に良かった。それぞれが発する疑問に対して、山中伸弥教授が的確な説明をしており、それをCGで視覚的に理解できるということで、すばらしい内容だった。山中教授は、若者世代が“見せかけの無症状”で多くの感染者を広げてしまうリスクがあるという説明をしていたが、非常にふに落ちた。この番組をもう少しコンパクトな形にして、教育界の人たちに幅広く見てほしいと思った。
- 7月4日(土)のNHKスペシャル タモリ×山中伸弥「“人体VSウイルス” 驚異の免疫ネットワーク」を見た。本当にすばらしく、多くの人に見てほしいと思った。また、学校教育でこの番組を見ることによって、新型コロナウイルスを本当に理解できるのではないかと考えた。分からないという恐怖心を解決するには知ること

が必要だと痛感した。映像は、色彩も独特で非常に細かく精巧な動きで、そのリアルさにも引き込まれた。山中教授が、「十分な睡眠、バランスのよい食事、適度な運動」と話していたが、実際毎日生きていく人間にとっては免疫力が非常に重要で、一番の基本的な考え方をしっかりと伝えてくれていた。また、分からないことも一つ一つ丁寧に答えており、信頼できる番組だった。

- 7月5日(日)のNHKスペシャル 戦国～激動の世界と日本～(2)「ジャパン・シルバーを獲得せよ 徳川家康×オランダ」を見た。日本の戦国時代の争いと、世界のオランダとスペインの攻防がリンクしていたということを明確に教えてくれた番組で、歴史の新しい一面が分かり、歴史観が変わっていき非常に勉強になった。ドラマ仕立ての場面やCGや地図も分かりやすく、50分の番組でも凝縮した内容だった。番組の最後で「グローバル経済を最も効率的に利用したものが勝利を収め、それは家康であり、オランダであった」というまとめ方が、現代につながっているというニュアンスでまとめられており興味深かった。とてもよい番組だった。

- 7月10日(金)の「緊急報告 豪雨から命を守るために」(総合 後7:30~8:15九州沖縄ブロック(除く沖縄))を見た。九州の豪雨の状況がまとめられていて、起こり得る危険に対してどうすればいいのか、啓発につながる番組だった。命からがら生き延びた住人の証言など、過去の教訓が通用しない最近の豪雨による被害を克明に伝え、将来の被害を防ぎたいという作り手の意図がよく伝わってきた。熊本県の豪雨災害で特別養護老人ホームの避難を助けに行った人のインタビューは非常に貴重な証言だった。亡くなられた方の最期の様子など、あまりにも悲惨な話は聞きたくないと思う一方で、あつという間に水かさが増す怖さや、少しでも早い避難が大切だと伝えることができる証言として、放送するかどうか悩んだのではないだろうか。数の示し方については、14人が亡くなった老人ホームには入所者とスタッフが何人いたのか、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために定員を200人に大幅に減らしたという避難所は、もともとは何人が定員だったのかなども情報としてあったほうがよかった。ことしの豪雨の際も、文字情報などでも常に災害関連情報が発信されており、命を守る情報伝達に徹しており感謝している。

- 7月11日(土)の「あなたにとって いま たいせつに思っている～いろんな人をつないで世界をのぞくTV～」(総合 後9:00~9:49)を見た。ステイホーム期間中、家にいる時間を堪能することもあったが、同時に、「会いたい人」というものも感じることもあり、「いろいろな人をつなぐ」という言葉にひかれて見た。冒頭でスタジオの出演者3人が、自分は両親に会いたい、元カノに会いたいなど話しており、いまこういうことを思っている人が普通にいるということに心が打ち解け、番組に

入りやすかった。番組ではハリウッドの映画スターなど、いろいろな人に次々とつながっていき、その展開に驚いた。今、新型コロナウイルスの感染拡大下において、何をしたいのか分からない時もあるが、人のことを思う、愛をお互いに感じ合えるということが、人を動かす動機づけになるということを実感した。多くの人に見てほしいと思える番組だった。

- 7月11日(土)の「あなたにとって いま たいせつに思っている～いろいろな人をつないで世界をのぞくTV～」(総合 後9:00～9:49)を見た。新型コロナウイルスの影響で、オンラインで顔を合わすことはできるけれども、なかなか直接会うことができない中で、とても面白いテーマの番組だった。世界のいろいろな国の町の映像や出演者の笑顔を見ると、とても明るい気持ちになり、早く旅をしたいという気持ちにもなった。一方で、それぞれの町や人々の生活をもっと見てみたかったと、もの足りなさを感じたところもあった。また、会いたい人とつながっていく展開だが、途中から本人同士ではなくて、会いたい人と番組の担当スタッフが会う形になっていたのも、そこが少し疑問に感じた。番組を見て、私は誰に会いたいのかと考えながら、会いたい人に会える喜びや、人にとっての幸せなど、いろいろと考えさせられた。
- 7月8日(水)の世界の哲学者に人生相談(再)「“行き詰まりから脱出するには”～ジョン・デューイ」を見た。哲学というと非常に難しいイメージがあり敬遠しがちだが、俳優の高田純次さんとモデルの池田美優さんという親近感を感じる2人が司会をつとめていて、番組をできるだけ面白く、簡単に伝えようという姿勢が伝わってきたので、非常に楽しく見る事ができた。ゲストの和田アキ子さんが素朴な質問や意見を話すことによって、視聴者としても共感できた。思い込みや固定観念が問題解決の敵であって、目的が定まって初めて手段が決まる、それが問題解決につながるという結論の部分が非常にふに落ちた。新型コロナウイルスの感染拡大や豪雨災害などもあり、困難に直面している人がいると思うが、それを解決するためには、目的自体を変えるなど、今の状況だからこそ使える手法ではないかと思った。今後の人生においても役に立つ思考法が学べ、非常に満足した。
- 7月12日(日)のこころの時代～宗教・人生～「今 互いに抱き合うことーコロナ禍に読む聖書ー」をNHKプラスで見た。北九州市で30年にわたりホームレスの支援に取り組む、牧師でありNPO法人の理事長の奥田知志さんの根底にある思想や、行動を呼び起こす根幹としての信仰を、奥田さん自身の語りを中心にじっくりと伝える優れた番組だった。インタビューする人、番組制作に携わる人たちの奥田さんへの理解と共感が感じられた。番組の最後で、ヨハネによる福音書の中の「光

は闇の中に輝いている、そして闇がこれに勝たなかった」ということばを奥田さんが解説していたが、まさに今、新型コロナウイルスの感染拡大下にある人たちや豪雨災害で先が見えずに立ちすくんでいる人たちに対して、闇が過ぎてから光が来るのではない、今の闇の中に光がある、そこに目を向けよう、というメッセージは救いになったと思う。打ちひしがれている人たちに希望を与える、まさに今見るべき番組で、人にも勧めたいと思った。

- 6月23日(火)の三宅民夫のマイあさ！「語り継ぐ～沖縄戦を“歴史”にしないために」を聴いた。三宅キャスターが、白梅学徒隊の活動を継いでいく若い世代にインタビューしていた。戦争体験を語り継ぐことはとても大切だが、より身近に感じてもらえるように、例えば戦前はどのような楽しい女学生ライフを過ごしていたかを聞き取って伝えるなど、試行錯誤をしているという話で、時間もしっかりと取り聞き応えがあった。

NHK福岡放送局
番組審議会事務局